

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500231	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎神木本町		
所在地	(〒216-0031) 神奈川県川崎市宮前区神木本町1-25-12		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年3月11日	評価結果 市町村受理日	令和6年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多摩丘陵の丘の上にあります、すぐ裏には、等覚院(つつじ寺)や近くに妙楽寺(あじさい寺)や散歩コースの東高根公園など、緑に囲まれた自然環境にとっても恵まれています。安らぎ・安心・快適を目標に、ご利用者の自然な笑顔が日々見られるような介護の実践に努めています。ユニット名の1F「つつじ」は、「川崎市の花」、2F「コスモス」は、「宮前区の花」から命名しており、地域に根差したホームを目指しています。近隣の小学校で運動会等が開催される際には、ご利用者と共に見学に赴いたり、児童の施設訪問も定期的にあります。今年の8月で開設から丸5年経過し、ご利用者の重度化も顕著になり、「最期は施設で迎えたい」とご家族からお話しいただくことも多くなりました。ご利用者、ご家族のご意向に添えるよう、体制づくりに力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年3月19日	評価機関 評価決定日	令和6年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇利用者に寄り添う運営

・事業所理念の「気づき・考え・行動する」を常に考え、利用者と家族が求めていることを実践できるよう努めている。コロナ禍の時期でも、病原体の進入を防ぐことができるN95マスクを利用し、家族との面会を可能としていた。

・入浴は週2回を基本としているが、利用者が入浴したいと希望すれば対応している。利用者が「痛い」と訴えたときは、それを否定せず随時受診するなど、常に利用者に寄り添っている。

◇法人の介護サービス間の協力関係

・同一法人が運営するデイサービスと小規模多機能型居宅介護施設が、事業所に併設している。3事業所の協力関係で、介護についての相談や適したサービスの案内ができ、3事業所は利用者や家族に安心を与えている。

◇地域とのつながり

・近隣住民が、事業所の木を剪定してくれたり、事業所に倒れ込みそうな大木の伐採を隣の寺に要請してくれている。また竹細工の得意な住民が門松を提供してくれるなど、地域とのつながりを深めている。

【事業所が工夫している点】

・法人のアロー制度にて、職員が広報や新人育成等の役割を担当している。職員の活動の場を広げ、人材育成に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	つつじの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「川崎市の花」よりユニット名を「コスモスの家」としました。「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」という理念を実現すべく日々努めています。	・事業所理念「気づき・考え・行動する」を各階事務室に掲示し、職員に周知している。 ・職員は、利用者の言うことを否定せず、一人ひとりをよく観察して、暮らしのペースに合わせて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になりましたが、感染予防対策をしながら施設の周りなど散歩をしたりしています。	・地域住民が、事業所の木を剪定したり、事業所に倒れ込みそうな木の伐採を隣の寺に要請してくれている。門松など竹細工を提供する近隣住民もいる。 ・地域包括支援センターの認知症カフェに4月から参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や随時のご見学等を通して、認知症の方への理解をお願いしたり、支援の方法をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染者が時折発生してしまっているため、拡大防止の為に郵送などで対応しており、電話で情報交換しています	・コロナ禍で2か月ごとの書面会議になっていたが、12月から地域包括センターの参加により対面で開催し、意見を聞いている。 ・会議には、隣接のデイサービスと小規模多機能型居宅介護の担当者も参加し、連携している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解とご協力をお願いしています。	・宮前区の高齢者障害支援課とは、介護保険手続きを家族に代り手続きしたり、担当者とは常に連絡や相談を密にしている。 ・区的生活支援課職員とは、生活保護利用者の幸区からの移管手続や後見人の相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束」についての研修を行っています。具体的にどういう行為が身体拘束になるのかを、スタッフが理解するようにします。また、やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束廃止に関する指針にて身体拘束廃止委員会を2か月ごとに開催している。議事録を回覧して情報を共有している。 ・職員研修は2か月ごとに開催し、スピーチロックやベッド柵、センサーの設置など、事例に基づいて意見交換をしている。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施し、高齢者虐待の5つの例を具体的に学び、スタッフ各々がご利用者の人格・尊厳を尊ぶことにより、自宅や事業所内での虐待が見過ごされないようにしています。各虐待の具体例を上げ、日々の業務で注意できるように促しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の全体会議の中で高齢者虐待防止に関する研修を行い、対応を学びケアに反映している。虐待禁止の周知徹底を図っている。 ・管理者は言葉遣いについて、利用者の尊厳を大切にしよう職員に注意している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書をご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解・ご納得いただけるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議をしていますが、コロナ感染者が発生の場合もあり輸送にて対応していますが、包括など電話をし情報交換をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からは、日頃の会話を聞きとり対応している ・家族が訪問した時は、要望がないか声掛けしている。 ・利用者の健康状態を確認したい家族の希望に対して、個別にLINE設定して連絡するようにしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的開催しています。また、管理者はいつでもスタッフの意見や提案を聞くように心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度のスタッフ会議で、常に職員の意見や情報を把握して、施設運営をしている。 年に1度個別面談をしている。 管理者は職員に、業務には自主的に取り組むよう伝え、提案が実現できるよう支援している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は日頃から、職員の努力や勤務実績を把握して評価している。 職員から、休憩時間を交代でなく一斉に取りたいとの提案があり、取り入れている。 育児中の職員には正月や夏休みなど休暇を優遇している。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有しています。介護技術や知識習得の研修に参加するよう、シフトの調整をしています。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護基礎研修と初任者研修は必須で、実務者研修や実践者研修も積極的に受講し、向上心を持つよう指導している。 研修や資格取得に対して、シフト調整や費用負担をしている。 法人のアロー制度で、職員に役割りを定め、活動の場を広げている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会合や研修会があれば、積極的に出席できるよう、シフト調整や、会費負担を承認しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模より入居されてくる方が多くあり、入居前から職員と利用者様が顔なじみの為、関係性ができているが、利用者様の話にしっかりと傾聴し、ご家族に電話をかけてほしいと要望があった場合など電話をかけたりと対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。生活していく上での疑問を本人様・ご家族様へ聞き馴染みの生活を継続できるように努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のこれまでの馴染みの関係については、入居時に把握して情報を共有している。 ・家族や友人との面会や外出、外食を支援している。 ・利用者が家族と一緒に墓参りや自宅に帰り外泊することもある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者のテーブル席を隣同士にするように配慮を行っています。共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。	・日常の会話や行動、表情、仕草、また家族の情報等を通じて、利用者の思いや意向を把握するようにしている。 ・カップラーメンやビールなど要望に応じて提供したり、塗り薬などの買物に出かけるのを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。生活していく上での疑問を本人様・ご家族様へ聞き馴染みの生活を継続できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人様、家族様からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。	・介護計画は、長期1年、短期6か月、および状況の変化があったときに見直している。6か月ごとにモニタリングを行っている。 ・ケアプランチェック表を活用して家族の要望、職員意見、医療情報を把握し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、スタッフ・関係者と協議し日々のできる事を考え・発想を柔軟にして、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、体調を踏まえ、天気・気候野の良い日は、散歩に出かけて、気分転換していただいています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医（主治医）の往診があります。ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けられています。	・家族の同意を得て、すべての利用者が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。協力医は24時間対応している。 ・看護師と歯科医が毎週訪問している。家族の要望でマッサージを受ける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回主治医の病院より看護婦が訪問に来て頂き、情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。往診以外にも病状が不安定な方がいらっしゃる時には往診医より状態確認の電話をいただいたりと、良好な関係が築けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と情報を共有し、ホームでできること、できないことを明確にして、ご本人・ご家族と話し合い、対応しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合の対応や看取りについて、入居時に説明している。 ・重度化した場合、医師と家族、管理者で方針を決めている。 ・看取りでは、訪問看護師が酸素吸引や点滴を行っている。職員は投薬についての研修を受けている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。地域の避難訓練にも参加して協力関係を取っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年2回(1回は夜間想定)実施し、消防署への通報訓練を行っている。 ・水やアルファ化米、雑炊、野菜ジュースなど食料を利用者と職員の3日分、およびカセットコンロやおむつを備蓄している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の一覧表に賞味期限を記入して、避難訓練時など定期的にチェックすることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は「お手伝いをさせて頂く」気持ちで利用者に接している。 ・居室やトイレ、浴室のドアは必ず閉めようとしている。 ・事業所内のことを外で話さない、またグループLINEは使わないよう職員に徹底している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自身の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者にあることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただいたり、男性利用者には、髭剃りを渡して髭を剃っていただく等支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは、できることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。現状の食事状態に合わせソフト食の提供を出来るように致しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材と献立を業者から取り寄せ、利用者に応じてムースや1回きざみ、極きざみにしている。 ・利用者はテーブルの消毒や食器拭きなどできる範囲で手伝っている。 ・誕生日には、利用者要望のどら焼きやカステラなどで祝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所定の用紙に食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしています。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、ジュース等甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、ご自分でできる方には、声掛けで促し、口腔ケアをしています。状態に合わせコンクールやスポンジブラシなど使用し対応しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、ご本人の意思表示や、そういった素振りが見られたときには、今後、尿意・便意を残していくためにも、すぐに対応しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の排泄パターンを把握し、また仕草や様子を見て、声をかけてトイレに誘導している。食事や飲水の前後にも必ず誘導している。 ・病院を退院したときのおむつからリハビリパンツに変更できた利用者がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝牛乳又はヨーグルトを提供しています。また水分摂取を都度促しています。日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、主治医から指示を受けている方については便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となるよう支援しています。また異性間での拒否がある場合はそれに応じた対応を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回としているが、急に入りたくなった利用者の要望にも応えている。 ・車いす利用者は入浴介助用リフトで座ったまま湯舟に浸かっている。 ・利用者は職員と会話したり、ゆず湯や菖蒲湯で入浴を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では、コロナ感染があるため、ご家族様対応で毎日30分程度近所を散歩しています。ご自宅にも帰られる利用者様もいらっしゃいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は利用者を散歩やゴミ出しに誘っている。いつでも日光浴や外気浴ができるよう屋上に椅子を置いている。 ・利用者が買物に行けるよう支援している。家族と外出や外食、外泊する利用者もいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族にお願いしています。希望があれば購入して渡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。季節ごとに装飾も工夫しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温や湿度は、利用者に随時確認して、職員が調整している。 ・季節の花の飾りを利用者と作成してリビングに飾っている。 ・掃除や手すりなどの消毒は職員が毎日行っている。掃除機をかける利用者もいる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごせるような雰囲気作りもしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後にご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはベッド、エアコン、チェスト、クローゼット、カーテン、ナースコールを備え付けている。 ・利用者はふとんやテレビ、家族の写真、仏壇などを持ち込んでいる。 ・家族了解のもと、必要に応じてセンサーを設置している部屋もある。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後にご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。		

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	コスモスの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに ○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない ○ 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「川崎市の花」よりユニット名を「コスモスの家」としました。「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」という理念を実現すべく日々努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になりましたが、感染予防対策をしながら施設の周りなど散歩をしたりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時のご見学等を通して、認知症の方への理解をお願いしたり、支援の方法をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染者が時折発生してしまっているため、拡大防止の為 郵送などで対応したり、電話で情報交換しています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解とご協力をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束」についての研修を行っています。具体的にどのような行為が身体拘束になるのかを、スタッフが理解するようにします。また、やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施し、高齢者虐待の5つの例を具体的に学び、スタッフ各々がご利用者の人格・尊厳を尊ぶことにより、自宅や事業所内での虐待が見過ごされないようにしています。各虐待の具体例を上げ、日々の業務で注意できるように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書をご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解・ご納得いただけるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議をしていますが、コロナ感染者が発生の場合もあり輸送にて対応していますが、包括など電話をし情報交換をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的開催しています。また、管理者はいつでもスタッフの意見や提案を聞くように心掛けています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有しています。介護技術や知識習得の研修に参加するよう、シフトの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会合や研修会があれば、積極的に出席できるよう、シフト調整や、会費負担を承認しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模より入居されてくる方が多くあり、入居前から職員と利用者様が顔なじみの為、関係性ができているが、利用者様の話にしっかりと傾聴し、ご家族に電話をかけてほしいと要望があった場合など電話をかけたりと対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。生活していく上での疑問を本人様・ご家族様へ聞き馴染みの生活を継続できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者のテーブル席を隣同士にするように配慮を行っています。共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容をを確認しています。生活していく上での疑問を本人様・ご家族様へ聞き馴染みの生活を継続できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人様、家族様からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、スタッフ・関係者と協議し日々のできる事を考え・発想を柔軟にして、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、体調を踏まえ、天気・気候野の良い日は、散歩に出かけて、気分転換していただいています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医（主治医）の往診があります。ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けられています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回主治医の病院より看護婦が訪問に来て頂き、情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。往診以外にも病状が不安定な方がいらっしゃる時には往診医より状態確認の電話をいただいたりと、良好な関係が築けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と情報を共有し、ホームでできること、できないことを明確にして、ご本人・ご家族と話し合い、対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。地域の避難訓練にも参加して協力関係を取っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自身の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者にあることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただいたり、男性利用者には、髭剃りを渡して髭を剃っていただく等支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは、できることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。現状の食事状態に合わせソフト食の提供を出来るように致しました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所定の用紙に食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしています。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、ジュース等甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、ご自分でできる方には、声掛けで促し、口腔ケアをしています。状態に合わせてコンクールやスポンジブラシなど使用し対応しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、ご本人の意思表示や、そういった素振りが見られたときには、今後、尿意・便意を残していくためにも、すぐに対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝牛乳又はヨーグルトを提供しています。また水分摂取を都度促しています。日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、主治医から指示を受けている方については便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となるよう支援しています。また異性間での拒否がある場合はそれに応じた対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では、コロナ感染があるため、ご家族様対応で毎日30分程度近所を散歩しています。ご自宅にも帰られる利用者様もいらっしゃいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族にお願いしています。希望があれば購入して渡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。季節ごとに装飾も工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごすような雰囲気作りもしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後にご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、入居の際や入所後にご家族にお願いして、お持ちいただき、ご本人に心地よくお過ごしいただけるようにしています。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ川崎神木本町

作成日 令和 6年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	備蓄品などの賞味期限が一覧となっていない。また、訓練時にチェックを行っていないかった。	備蓄の賞味期限の一覧表を作成し、避難訓練時には期限のチェックを行うようにする。	早急に備蓄に賞味期限一覧表を作成する。また、避難訓練時には防火管理者だけでなくその他職員にも期限の確認を行って頂く。	1か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。